

TXPMedicalと業務提携 データ利活用した新薬有効性検証などを支援へ

国内最大規模の診療データベース（DB）を保有するメディカル・データ・ビジョン株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：岩崎博之、以下「MDV」）は、医療データで救急医療の質向上と効率化を目指すTXPMedical株式会社（同、代表取締役・医師：園生智弘）と業務提携することで基本合意したのでお知らせいたします。業務提携によりMDVの診療DBと、TXPMedicalの救急をはじめとした全診療領域のDBを組み合わせるなどして、製薬会社やアカデミアなどのデータ利活用を支援していきます。

TXPMedicalは、「医療データで命を救う。」を理念に掲げ、救急医療情報システム「NEXTstageER」を展開し、全国69の病院（2023年8月末）で導入、その4割近くの病院との間で救急医療データと電子カルテデータを、臨床研究や臨床試験（治験）目的で二次利用する許諾を得ています。これにより、平均700床超の病院とデータ連携が可能です。また、院内でDWH（Data Ware House:データウェアハウス）、いわゆる「データの倉庫」を構築し、大量のデータを時系列に整理・保管、データ分析などで利活用できる状態にしています。

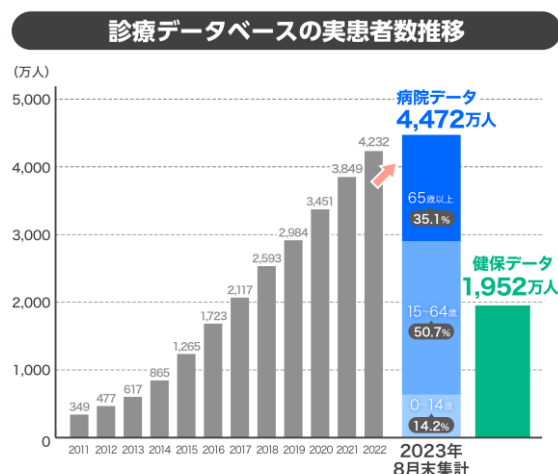
業務提携で具体的には、データ利活用について顧客企業に対して新たな価値提供に向けて共同提案をするほか、治験についても両社のリソースを活用した効率的な運用を提案していく考えです。製薬会社やアカデミアのデータ利活用による新たな治療法研究や新薬の有効性検証などを支援していきます。TXPMedicalの園生代表取締役は「MDVと当社、互いの強みを生かした“T型”医療データベースモデルはデータベース研究において唯一かつ、究極のソリューションになる」と語っています。

MDVはオープンアライアンス戦略のもと、昨年5月に株式会社ディー・エヌ・エーと業務提携をし、両社で蓄積してきたDBを連携させることで、一段と厚みのある保険者DBを構築しました。従来のDBに健康保険組合データが一層上乗せされ、国民健康保険加入者、後期高齢者のデータも加わりました。その結果、利活用可能なDBの実患者数は、MDVの従来からある病院データで4,472万人（2023年8月末）、保険者データは1,952万人（同）となっています。

【業務提携による価値創出のイメージ】



【MDVの診療データベース】



<本件に関するお問い合わせ先>

メディカル・データ・ビジョン株式会社 広報室 担当：君塚、赤羽、汲田

TEL：03-5283-6911（代表） MAIL：pr@mdv.co.jp